

第 3 学 年 小 論 文 講 演 会

平成 2 3 年 6 月 8 日

6 月 8 日（水）第一学習社の長岡裕子先生を講師に迎え、小論文講演会を開催しました。6 月下旬に実施する小論文模試の事前学習として位置づけ、小論文の入試のねらいや小論文の書き方について講演をしていただきました。

小論文は 3 0 年前から大学入試で出題されており、しかも現在約 8 0 % の大学が小論文を利用しているという事実にはびっくり！しました。

【講義内容】

入試小論文の出題傾向

- ・社会の出来事や変化に左右される。例えば今年は、震災を経て「日本人の生き方や価値観」が問われるかも。

出題形式の考え方 どの形式で出題されるかで答え方がかわってくる。

- ・テーマ型小論文 - テーマだけが与えられて自分の意見を述べる形式。広範囲の知識が問われる。
- ・課題文型小論文 - 課題文に基づいて論述する形式。「問 1 は読解、問 2 は論述」の場合が多い。
- ・データ型小論文 - データ（過去の結果）分析。それをふまえてこれからどうするのか。

演習 - 課題文型小論文 / データ型小論文

課題文型 課題文をふまえて自分の意見を述べる。

「課題文をなぞらない、感想文にしない、課題文を無視しない」ことが大事。

データ型 データをどう読むか（資料分析力）が求められる。

情報収集の方法

- ・「なぜ」を知る 考える 書く
- ・よい小論文を書くためには、普段から問題意識をもって生活していくことが大切。

今日はこの講演会のために広島より遠路来校していただきました。わかりやすい講演をしていただき、生徒達の「小論文」に対する苦手意識も少しは払拭できたのではないかと思います。

